

①地域紹介と社会資源等 ～飯塚市とは？～



◇飯塚市(いづかし)は、福岡県中部に位置する市で、筑豊三都の一つに数える。筑豊で最大の人口を擁し、筑豊の中心機能を持つ都市でもある。また福岡市、北九州市、久留米市に次いで**福岡県内で4番目の人口を擁する。**人口は126,555人(R3.12) 高齢化率、31.9%(R3.10)

◇地域包括支援センターは、11か所。

◇認知症カフェは11か所。

◇「いづか認知症読本」

→当初、市内小中学校の児童生徒が認知症について正しく理解し、認知症をもつ身近な高齢者に対する思いやりの心を育むことを目的とした学習教材として作成し、令和元年度より、小中学校の授業において活用。

◇「飯塚市認知症高齢者等個人賠償責任保険事業」→令和2年7月より開始

①地域紹介と社会資源等 ～福岡県認知症医療センターの現状～



福岡県認知症(疾患)医療センター配置図



平成23年より
スタート

平成26年度から福岡県の保健医療圏域、全11カ所と福岡市、北九州市の指定を加え、
現在、
合計16カ所に認知症医療センターが設置【※】

①地域紹介と社会資源等 ～飯塚記念病院 概要～

<病床数>400床の精神科病院

★筑豊唯一精神科救急病棟108床

<診療科>精神科、心療内科、内科、腎臓内科

<入院機能>HP: www.iizukakinen.jp/

精神科救急病棟（平成22年10月開設）

認知症治療病棟などで7病棟で構成


**<外来機能> 精神科DC・DNC、
訪問看護ステーションいづか
飯塚記念病院ケアプランセンター**

短期通所リハビリテーションはばたき(令和3年10月開設)

**<関連施設> 心のクリニック飯塚、就労継続B型みのり
グループホームほくらの家【地域移行型:2年間の期限】**

GH 群星 GH レイクサイド ※GH:グループホーム

平成26年
12月1日付、
福岡県
認知症医療
センターの
指定を
受けました



飯塚記念病院
福岡県認知症医療センター
092-922-1111・1112・1113・1114・1115

②最初の働きかけ運営メンバー選定

◇最初の働きかけ

新型コロナウイルス感染拡大の状況、医療機関の実施ということを考慮し、院内スタッフは私一人で運営。ミーティングセンターの活動の手引きを読み込み、企画書を作成。地元である飯塚市を始め、2市1町の行政、地域包括支援センター、介護保険施設・事業所等にチラシを作成し、プレゼンを実施。

→結果的に個別での声かけとなり、その都度のプログラムの内容により、運営メンバーが変更。

②最初の働きかけと運営メンバー選定

◇運営メンバーの選定

院内のスタッフが私一人(仮に新型コロナウイルスに感染した場合の複数感染防止の観点から決定)であったことから、運営メンバーのうち、コアメンバーを決める必要性があったこと、開催場所の決定が必要であったことから、このことを軸に選定。

コアメンバーは精神科病院に勤務している臨床心理士、開催場所を飯塚市内のサービス付き高齢者住宅としたことから、その管理者(支配人)や職員とした。前述のように、プログラムによって、運営メンバーの人選を変え、様々な人が触れる機会となった。

飯塚記念病院
福岡県認知症医療センター
認知症・痴呆科・認知症看護科・認知症相談科・認知症研修科

③プログラム参加者への告知方法

◇プログラム参加者への告知方法として、

公募をせず、当院の外来受診にいられている患者様、

ご家族様に、ミーティングセンターに関するチラシを手渡しし、説明。

参加の意思確認を実施。

事業終了後の外来診察にて、再度意向確認を実施。その際、

ご本人やご家族がやりたいことなどを聴取。

飯塚記念病院
福岡県認知症医療センター
認知症・痴呆科・認知症看護科・認知症相談科・認知症研修科

日誌

2021年12月19日 日曜日
13:00~16:00 (受付13:00)

★対象申し込み制	★参加費 なし。アプルハート 内館のよっては、飲料もあり
★対象者は、 1/23日曜日の活動者 予定です。	★新型コロナウイルスの感染拡大 防止に配慮しながら、少人数 精確なケアを提供していきます。

場所
アプルハートリビングいづが
住所：〒820-0011 福岡県古賀市宮原5-9

③プログラム参加者への告知方法～対象者の概要～

◇今回、モデル事業対象者は当院外来患者及び家族、夫婦3組が対象。

①75歳女性(アルツハイマー型認知症)と夫

カメラ屋を20年以上営む。認知症の病名告知後、カメラ屋をやめ、運転免許の自主返納、現在夫が飲食を含めた日帰り旅行を中心とした日中支援をしている。介護保険は未申請。

地域包括支援センターの紹介で当院受診。受診相談の段階で、ミーティングセンターの写真撮影を依頼。妻は太極拳の指導者としての資格を取得している。

②75歳女性(アルツハイマー型認知症)と夫

夫との二人暮らし。当院に2019年2月に初診。MCIの診断を受け、夫に介護保険の説明を実施。要支援2の認定を受けたが、介護保険サービスの利用に至らず、現在に至る。本人の認知症の進行が進んでいるが、病識がない状況下でミーティングセンターの事業を説明。本人が好きで社交ダンス、散歩といった運動に焦点を当て、又、モデル事業の協力者となった、支援者の知り合いということもあり、現在はやや協力的である。

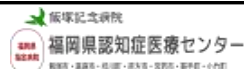
③61歳男性(中等度アルツハイマー型認知症)と妻(MCI:軽度認知障害)

2018年7月にトラックの運転手として仕事をしていましたが、看板を見て、当院に受診。アルツハイマー型認知症の診断を受け。その1週間後に会社を解雇となった。その後定期的を受診しながら、現在にいたっていたが、同居していたが妻が物忘れを訴え、MCIの診断を受けた。本人は字が書けず、認知症の進行が進んでいる。

夫婦共に無趣味で、唯一、夫は魚釣りをしていた。



④開始から継続(プログラム内容) ～福岡県飯塚市の事業概要～



◇開催場所

アップルハートリビングいづか

◇対象者(3組:6人+α)

当院外来患者様とご家族

◇開催頻度は月4回【日曜日】

(10/24、11/14、12/19、**1/23**)

◇活動時間:午前10時～15時まで

ただし、10/24、11/19、12/19は

活動プログラムによってですが、

午後から活動を実施。(1/23は延期)

◇プログラム<ミーティングで決定>

認知症の方、そのご家族が**その日のうちにやりたいことをやる。**

④開始から継続(プログラム内容)

①2021年10月24日(認知症の本人4、家族19)

○コグニサイズ、魚釣り + ミーティング

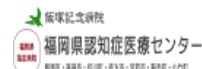
☆初回のプログラムのみ、事前に患者様とご家族様から思いを聴取。コグニサイズと魚釣りを分けて実施。

②2021年11月14日(認知症の本人2、家族3)

○ウォーキング、合唱 + ミーティング

③2021年12月19日(認知症の本人2、家族5)

○ボッチャ + ミーティング



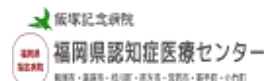
⑤この事業の効果と有用性等

◇事業の効果

事業の効果として、認知症の人本人を支えるご家族が家族のみで介護していた現状から、第三者(専門家)への相談、介入し、事業所の見学に至った。又、事業に対するモチベーションの向上が見られた。

◇事業の有用性

- (1) 認知症本人とご家族の **エンパワーメントの強化**
→ 生き生きした姿、笑顔、事業への参加率が高い。
- (2) コアメンバーを始めたとした **専門職同士の絆が深まる**。(当事者、家族も含めて)



⑤この事業の効果と有用性等(2)

◇事業の有用性



- (3) 医療機関の立場として、診断後支援の一助につながる。(病院では時間が限られてしまう)
- (4) 認知症本人、ご家族の病院で見せる姿と違う姿を見れて、ご本人、ご家族との距離が縮まる。
- (5) 認知症本人とご家族の距離感が分かり、その距離に応じて、一体的な支援、個別支援といった支援の選択の幅が提供できる。
- (6) ご本人、ご家族、専門職同士の交流の場
→社会資源の一つとなる。地域の拠点、
パーキングセンター(パーキングエリア)を目指す。